

2016年1月24日
@川崎市

コミュニティヘルスのあるまちづくり コミュニティの居場所をどうつくり育てるか

慶應義塾大学
からだ館

秋山 美紀

「居場所」への注目

- ・『『心の居場所』づくりを目指して-』（1992年文部科学省報告書）
- ・無縁社会（2010年流行語）
- ・東日本大震災（2011年）

居場所 感

どんな要素か、対象によって異なる。

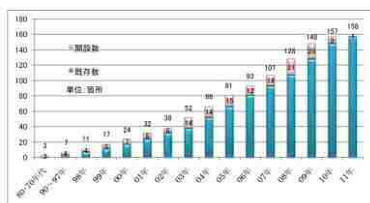
- ✓「本来感」「役割感」「被受容感」「安心感」（則定2007）
- ✓「当事者意識」「関係性」「自己効力感」（氏家2015）

3

地域コミュニティの＜居場所＞への注目

- ・「コミュニティカフェ」「まちの縁側」「まちの居場所」「ふれあいの居場所」など、様々な人が自由に交流できる小規模の地域コミュニティの拠点の増加（日本建築学会2010ほか）。
- ・多くは2000年代に設立、年々増加傾向にある（大分大学福祉科学研究センター2011）

市民同士の「つながり」を形成し、主体的に地域課題に取り組む「活動」が生まれる契機になっている。



コミュニティカフェ設置数の年次推移
(大分大学福祉科学研究センター2010)

4

最近の居場所の研究（1）

- ・福祉分野の事例研究
 - － 高齢者や子育てサロンを含む全国コミュニティカフェの実態調査（大分大学福祉科学研究センター2011）
 - － ふれあいいきいきサロンの地域福祉の視点からの評価（中村2009）
 - － コミュニティソーシャルワークの観点からのカフェの交流促進機能（倉持2010）
 - － 高齢者施設としてのまちの縁側のイタリアの社会センターとの比較（乾他2006）
- ・建築・環境分野の事例研究
 - － 従来の公共施設を補完する新しいタイプの地域拠点（小松他2007、延藤2008、日本建築学会2010）
 - － まちの居場所の特性と公共性の特徴からの考察（橋2005）
 - － 空間、利用形態、交流形態の分析（伊藤他2009、國上他2010、大橋他2013）
 - － 計画論、環境行動(市民によるplace making)の視点からの注目（田中2012）

5

最近の居場所の研究（2）

- ・地域・社会政策における＜場＞への注目
 - － コミュニティの核となる都市の場所づくり（Gratz1989）
 - － ハコモノ中心の都市振興政策の限界（久繁哲之助2008）
 - － 社会教育の視点から地域コミュニティを形成するカフェの役割（久田2008）
 - － 定常化社会におけるコミュニティの中心（広井2009）
 - － 自治体・NPOの協働の場の可能性（山浦2010）
- ・社会理論におけるコミュニティの「場」
 - － 「自己の存在を確信し、そこに集う人々の紐帯を取り戻し、人々が共に力を出し合って善き生活を築く場所」の必要性（真鍋2011）
 - － 同じ場所に生きることや共通の善という価値共有の＜場＞への注目

6

居場所の分類軸

	地縁コミュニティ重視	テーマコミュニティ重視
居場所型	比較的狭い地域のコミュニティ形成を主眼とする場	子育てサロン、認知症カフェなど特定のテーマを持つ場で、対象地域は比較的広い
活動拠点型	まちづくり活動の拠点としての性格を持つ場	社会起業やコミュニティビジネスを通じた地域活性化を目指す場

坂倉杏介（2016）
複数の特徴を併せ持つ居場所、時間の経過で変化する場合もある。

7

居場所機能の広がり

事例（１）埼玉県幸手市

8



埼玉県幸手市の幸手団地と
東埼玉総合病院

団地の商店街に
コミュニティカフェ「ぷリズム」、
隣は、惣菜や「ぶライス」



カフェマスターの小泉圭司さん



東埼玉総合病院の医師
中野智紀さん

コミュニティーズ
丑久保さん

- ・ 病院内の在宅医療連携拠点「菜のはな」と、地域アウトリーチ活動としての「暮らしの保健室」
- ・ 病院と在宅を支える人がつながる勉強会
- ・ 自治会との協働
- ・ 「健康と暮らし支えあい協議会」の設立など



コミュニティの「ちから」の発掘、そして「協働」
住民が「主」、医療者は「従」が幸手モデル

まちづくりのための
勉強会、朝市、
空き家を活用する
会など、いろいろ
な場、活動が
立ち上がっている。

幸手のケース（協働・融合モデル）

	地縁コミュニティ重視	テーマコミュニティ重視
居場所型	比較的狭い地域のコミュニティ形成を主眼とする場	子育てサロン、認知症カフェなど特定のテーマを持つ場で、対象地域は比較的広い
活動拠点型	まちづくり活動の拠点としての性格を持つ場 ぷリズム、ぶライスによる活性化 高齢者の活動・外出支援	在宅連携拠点「菜のはな」と協働する「暮らしの保健室」活動 社会起業やコミュニティビジネスを通じた地域活性化を目指す場 NPO すぎと SOHO 等との連携

幸手方式「暮らしの保健室」は2015年1月現在17ヶ所に増殖

13

居場所に関するこれからの研究課題

- どのようにして居場所としての機能を果たしているのか？
 - 参加者の**コミュニケーションと相互作用**はどのようにして起きるのか
 - 参加者の**役割**はどのように変化していくのか
 - **信頼**はどう形成されていくのか
 - 参加する**動機**はどのようにつくれるのか
 - 参加者にプラスの**内部変化**をどう起こすか

「価値創造の健康情報プラットフォーム」秋山ほか（2016）より

居場所のつくり方へ還元できる理論の生成

14

参加者の内部変化

事例（2）山形県鶴岡市

15



インターネットによる情報収集もナビゲータが支援

ガイドラインや解説書だけでなく、闘病記や患者会資料も充実

情報を調べる 探す場！
病気、予防、治療法、療養や日々の生活について

からだ館 場づくりの 3本柱

学びの場！
予防、生き方（死生観）などさまざまな勉強会を開催

出会い 分かち合いの場！
同じ立場の人の出会い 経験のわちあひ 経験という資源の社会還元

料理教室もやってます（＾＾）



「できること、何かお役に立ちたい…」そんな気持ちから自主的なサークル活動が發展

ランチョンマットづくり

編み物講座

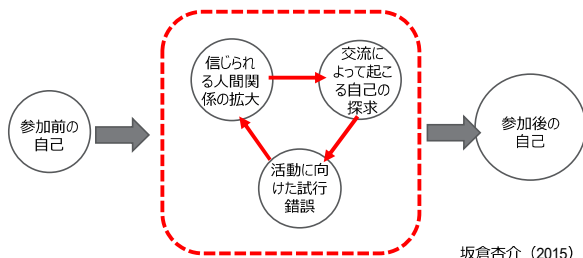
ピア（仲間）エンパワメント



にこにこ倶楽部の参加者が、地域の保健推進員や学生のからだ館見学会で体験をお話してくださるように…



参加者に起きるプラスの内部変化

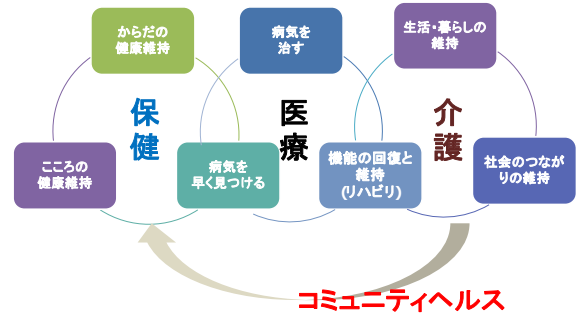


坂倉杏介 (2015)

- ・ 参加することがなんらかの人生の転機につながるような世界観や自己概念といった価値観の変化 (Bridges2004)の体験
- ・ 居場所への参加によって、安心して関われる信じられる関係が広がる。関係のなかで自己の見直しが生じ、試行錯誤しやすい環境があることで活動に向けた準備をすすめることができる (Kim 2001, 遠山他 2002)
- ・ 特有の関わり方の規範 (ゴッパン1980) が自己と行動の変化を創出する

22

一方向性の専門家の連携



地域住民も役割を持ちながら参加・協働

『地域医療を守れー
わかしおネットワークからの提案』
(2008年)



『コミュニティヘルスのある
社会へー「つながり」が生み出す
「いのち」の輪』(2013年)



- ・ ひとりひとりが『当事者』という視点
- ・ 人が人として生きる場＝コミュニティ
 - － 地域キコミュニティ
 - － 地域性は大事だが、それだけではない。